



赤岡町少年防災クラブ 日本代表でスイスへ! 7月12日(金)から23日(火)まで 青少年消防オリンピックに出場!!



■早速、「こうなんZOWIE」でも市民の皆様にお伝えするため赤岡中学校で、本番のユニフォームを着た練習の様子を取材させていただきました。

消防オリンピックとは?

2年に1回開催、ヨーロッパの20数カ国が参加し、1チーム10人、年齢12歳から16歳、各国2チーム以内が参加しています。

大会では、消防の実技を取り入れた障害物競争や400mリレーの他、参加各国の文化・歴史等を発表する国際交流イベント等が行われる予定です。

北海道 札幌市

厚別中央の少年消防クラブ

東京都 町田市

町田消防少年団

大阪府 河内町

河内町ファイアジュニア

高知県 香南市

赤岡町少年防災クラブ

平成21年7月、日本から初めて少年消防クラブの4チームがチェコで開催された17回大会に、ゲスト参加ということで派遣されました。今回、スイスで行われる22回大会に、6回目と

なる日本からの派遣チームとして、赤岡町少年消防クラブは、応募した18チームの中から選ばれたのです。

派遣されるのは、次の4チーム。指導者含む計24人です。

■障害物消防競技
60m標識までに4つの障害物
手動式消火ポンプを使って放水、ホースを巻く競技

■400mリレー
全長400mのトラックで、45ミリの筒先のボタンを使い、9つのセクションで実施

■障害物を越えるハードルを越える

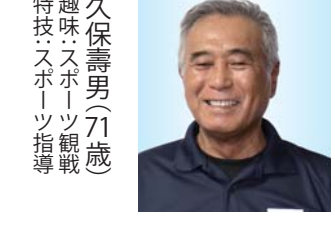
重いホースを持って仲間と連携する

飛び越えたりくぐったり

ヨーロッパ方式のホースで練習

ロープ結策4種類
何度も練習

プレーが終わるとほっと安心



小学校時代から活動を続け 地域の防災リーダーに。

赤岡少年防災クラブを指導しているのは、同町の香南市消防団副団長久保壽男さん。

「活動を始めたのは平成17年。子どもたちの消防活動として始めた『夜回り』が最初です。」

年の暮れ、毎年赤岡の町では、楽しい掛け声で巡回することも多い。マッチ一本火事のもと、焼肉焼いても家焼くな。

これからの人生の中でも、そういったことではない。小さな町から、世界の大きな舞臺に出ていく。かっこいいお兄ちゃんお姉ちゃんを見て、あとに続く子どもたちが出てきてくれたら、本当にうれしいことです。大人になって、本当の災害が来たとき、地域の頼もしいリーダーとして活躍してくれることを期待しています。

※日本のホースとヨーロッパのホースは、つなぎ方が違っています

松山▼この活動は、仲間と協力しないと行けないから、「絆」が深まりました。オリンピックでも、みんな協力して自分のやるべきことをしっかりとやりたい。

今西▼競技中は話をしたらダメです。なるべく自分で考えて速く動けるように練習します。

濱崎▼私は、どの役割になるかわからないので、全部の種類をやれるように練習します。知らない人と協力するのは、不安だけど、自分のためにがんばりたいです。



JAPANを背負う

「オリンピックでJAPANを背負って世界に出られる経験は、

さらに久保さんは「私たちの住む地域は、南海トラフで必ず大きな災害が起こる場所。子ども頃から防災に対する高い意識をもって、地域を引っ張る防災リーダーを育てたかったんです」と話します。

長谷川▼サッカーをやりながら防災クラブの練習をするのは大変だけど、力がつくと思っって一生懸命がんばっています。

吉田▼小学校の時、自分から手を挙げて防災クラブに入りました。将来は消防士になるのが夢です。オリンピックでは、自分の自己ベストを目指したい。ホースをつなぐのが難しいので練習

